

提案の内容

- 教育内容や体制は、すぐに必要な検討をして**できるところから速やかに実施**する。
- 学校施設は、**2030年の完成**を目指してできる限り早く整備する。

学びと体制

個 主体性を重視

～キャリア教育～

- 自分のよさを見つけ、発信できる。
- 学校にいるうちから社会とつながり、学びの意味を知る。
- 自分の夢や目標に向かい必要な力をつける。



自分たちでつくったお茶を販売

集団 多様性を尊重

～小中一貫教育～

- 市が義務教育9年間で全体的にデザインし、系統立てた学びにする。
- いろいろな人・こと・物に触れる機会をたくさんつくる。



中学生が小学生に英語で読み聞かせ

社会 みんなで子どもを育てる

～コミュニティ・スクール～

- 学校・地域・企業が目標を共有する。
- それぞれの自立した活動や協働した活動ができる仕組みをつくる。



地域の人と竹とんぼ作り



望ましい教育のあり方が答申されました

検討の背景

AIなどに代表される技術革新やグローバル化、人口減少などにより、私たちの生活形態や雇用環境などが大きく変わりつつあります。国ではその変化に対応するため、教育改革を行っています。本市でも同様に、急激な少子化や施設の老朽化が課題とされ、津波防災の観点から、学校の立地についても検討が求められています。

教育委員会では、審議会「牧之原市教育のあり方検討委員会」に諮問をして、今後の牧之原市を見据えた「望ましい教育のあり方」について検討をしてもらいました。12月20日に、検討結果が提案されましたので、その内容についてお知らせします。

問い合わせ 教育総務課 石川 ☎32642

教育のあり方検討

しかし、施設について検討する前に、まずは「子どもたちにとってどのような教育が必要で、何を大切にしていけるのか」ということを明確にする必要があります。そのため、教育委員会では、専門家を入れた「教育のあり方検討委員会」を設け、検討をお願いしました。

検討委員会では、今年2月から6回の会議や勉強のための講演会、視察を行いました。会議では、子どもに付けた力の検討から始まり、施策の提案のまとめまでを行いました。その過程では、市民意見を検討の参考にするために、保護者や自治会役員、高校生などとの意見交換会を2回、実施しました。



意見交換会の様子

次代を切り拓く力

これからの不透明な時代にも、自分の力で未来を切り拓くことができるようになってほしい、失敗しても次のチャレンジができるようになってほしい、などの委員の思いから、検討委員会では、これからの子どもたちに付けてほしい力を「次代を切り拓く力」としました。

心身のたくましさや思いやりなどの人間力を基礎とし、さまざまな体験や対話、協働を通して「学ぶ↓創造する↓活用する」というサイクルを回し、その過程で、コミュニケーション力、課題発見・解決力など、自分の力で未来を切り拓くことができる力を育てたいと考えました。このような力を付けるため、次の方策が提案されました。



検討結果を教育長に答申

安心・安全、学びやすい、通いたい・通わせたい学校に。

- 学校を集約して、人と物を集中・充実！
- 1学年は、クラス替えができる規模に。
- 地域の人々の活動スペースも必要。
- 充実した図書館やプールなどを学校と一緒に作り、みんなが利用できるものに！
- 津波浸水区域を避ける。

施設のことは
まちづくりと
一緒に考える！



教育委員会では今後、答申内容を検討し、教育の方針をつくります。そして、その方針を着実かつ早期に実現できるよう取り組みを進めます。

